



特集 第7回通常総代会



魅力たっぷり！
島根の農産物



2021

JAしまね第7回通常総代会を6月27日(日)、大田市の大田市民会館で開催しました。



今年で第7回を数える通常総代会を6月27日(日)、大田市の大田市民会館で開催しました。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策として書面での決議を推奨し、当日は総定数1,000人(欠員4人)に対し、973人(本人出席43人、書面議決930人)の出席。議長団に原田稔総代(やすぎ地区本部)、北村一夫総代(斐川地区本部)の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告や新年度事業計画など全議案が可決承認されました。

石川寿樹組合長は「今年度も厳しい状況ではあるが、なんとしても盤石な経営基盤を確立しなければならない。営農経済事業改革、信用共済事業改革にしっかり取り組み、実績を残していく。また、コンプライアンス体制の強化と不祥事再発防止策を最重要課題として、役職員一人一人が意識と自覚を持ち、組織をあげて改善に取り組んでいく」とあいさつしました。



石川寿樹 代表理事組合長



議長団 原田稔総代(左) 北村一夫総代(右)

JAしまねの「不断の自己改革」の実践に関する特別決議

JAしまねは、平成28年度より、組合員との対話に基づいて「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」という基本目標の実現に向けて、創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

これまでの自己改革の取り組みについては、平成31年に実施した「JAの自己改革に関する組合員調査」等において、県内の多くの組合員から、総合事業を通じた自己改革への評価と期待の声をいただきました。

こうしたなか、政府による改正農協法5年後検討の節目を迎え、コロナ禍や人口減少等による農業・地域・JA経営の厳しい状況が踏まえ、これまで以上に組合員の声を真摯に聴き、丁寧な対話を積み重ねるとともに、営農経済や信用共済等の事業改革の実践を通じて、基本目標の実現に向けた取り組みを持続していかなければならない。

今後ともJAしまねが、「不断の自己改革」を通じて、農業・地域の展望を力強く切り拓き、組合員と地域にとってなくてはならない組織であり続けるために、下記の事項に取り組む。

記

1. 今後とも組合員との徹底した対話に基づき、総合事業と協同活動を通じて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向けた「不断の自己改革」に全力で取り組む。
2. 正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現するため、准組合員を「正組合員とともに農業や地域経済の発展を共に支える組合員」と位置付け、その声を経営に反映するとともに、一層の事業利用と組合員組織や協同活動への参加を進めていく。
3. 地域になくなくてはならないJAであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化に取り組む。

以上、決議する。

令和3年6月27日

第7回 島根県農業協同組合 通常総代会

また今回、JAしまねの「不断の自己改革」の実践に関する特別決議が、満場一致で採択されました。

今後、この決議に基づき、引き続き「不断の自己改革」に全力で取り組むとともに、正組合員・准組合員が一体となったJA運営の実現と持続可能な経営基盤の確立・強化に一層取り組んでいきます。

第7回

通常総代会特集

令和2年度 事業報告

令和2年度は、当初よりコロナ禍の影響により時短営業や外食の自粛・インバウンド需要の激減に伴う業務用農畜産物の需要減少、式典やイベントの自粛に伴う花きの需要減少、移動制限に伴う地方の観光関連収入の減少など農業・農村地域においても多大な影響が出ました。また、都市圏を中心とした度重なる緊急事態宣言の発令、変異株ウィルスの発生等により依然として厳しい状況となっています。

海外の経済についても、新型コロナウイルスに対するワクチンの開発、接種により緩やかな回復が期待されていますが、今後の感染再拡大への効果はまだ未知であり、先行きは不透明なものとなっています。

島根県内の経済を振り返ると、春先の全国一斉緊急事態宣言解除後、雇用情勢は一定の改善の動きが見られ、個人消費も緩やかに持ち直しの動きが見られましたが、今後、変異株の発生による感染再拡大、都市圏を中心とした緊急事態宣言等の動向等を注視していく必要があります。

農業情勢においては、令和2年7月の豪雨災害、令和3年1月の大雪などの自然災害が発生し、全国各地で農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらしました。また、令和2年11月に発生した鳥インフルエンザにより、農業における飼養衛生管理基準の遵守状況の自主点検や全国一斉緊急消毒が行われました。引き続き、災害復興・防疫の取り組みを進めていく必要があります。

JAGグループにおいては、最大の懸念事項であった准組合員の事



山根盛治 代表理事副組合長

業利用規制については、令和3年3月の規制改革推進会議農林水産ワーキンググループにおいて、農水省が「組合員の判断」とする方針を提示したことをふまえ、引き続き「不断の自己改革」を着実に実践していく必要があります。

こうした状況の中、令和2年度は「第2次中期経営計画」並びに「第2次農業戦略実践3ヵ年営農計画」の2年目として、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、地域の活性化、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が379億96百万円、購買品供給高が313億20百万円、貯金残高が9.964億4,400万円、貸出金残高が2.836億8,900万円、長期共済保有高が3兆1,837億8,400万円、自己資本比率は14.33%、事業利益が9億6,200万円、経常利益は23億700万円、当期剰余金は17億1,600万円となりました。

収支面については、事業利益が9億62百万円、経常利益は23億7百万円となり、当期剰余金は17億16百万円となりました。

主な事業活動と成果の詳細については次ページのとおりです。

貯金残高	9,964億4,400万円
貸出金残高	2,836億8,900万円
長期共済保有高	3兆1,837億8,400万円
自己資本比率	14.33%
事業利益	9億6,200万円
経常利益	23億700万円
当期剰余金	17億1,600万円



高木賢一 代表理事専務

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。

- 第1号議案 令和2年度事業報告及び剰余金処分案について
- 第2号議案 令和3年度事業計画の設定について
- 第3号議案 定款の一部変更について（特別決議案）
- 第4号議案 共済規程の一部変更について
- 第5号議案 「海士町複業協同組合」への加入について
- 第6号議案 令和3年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について
- 第7号議案 令和3年度における理事の報酬額の決定について
- 第8号議案 令和3年度における監事の報酬額の決定について



組合員の状況

① 組合員数

(単位：組合員数)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	62,951	761	2,345	61,367	
	法人	農事組合法人	237	6	1	242
		その他の法人	231	14	4	241
	計	63,419	781	2,350	61,850	
准組合員	個人	162,951	2,582	3,841	161,692	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	22	—	2	20	
	その他の団体	1,813	23	23	1,813	
	計	164,786	2,605	3,866	163,525	
合計		228,205	3,386	6,216	225,375	

② 出資口数

(単位：口)

資格区分		前期末	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	16,209,400	301,621	638,238	15,872,783	
	法人	農事組合法人	26,608	221	53	26,776
		その他の法人	30,345	232	47	30,530
	計	16,266,353	302,074	638,338	15,930,089	
准組合員	個人	5,831,310	312,312	242,299	5,901,323	
	農業協同組合	—	—	—	—	
	農事組合法人	2,106	13	189	1,930	
	その他の団体	92,449	408	1,090	91,767	
	計	5,925,865	312,733	243,578	5,995,020	
処分未済持分		136,195	122,693	136,195	122,693	
合計		22,328,413	737,500	1,018,111	22,047,802	

摘要：(1) 出資一口金額 1,000円
 (2) 当期末払込済出資総額 22,047,802,000円

財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	第6事業年度 (令和元年度)	第7事業年度 (令和2年度)	
財務	事業利益	474	962	
	経常利益	1,987	2,307	
	当期剰余金	992	1,716	
	総資産	1,114,801	1,109,021	
	純資産	77,103	79,681	
信用事業	貯金	976,761	996,444	
	預金	539,985	550,897	
	貸出金	286,465	283,689	
	有価証券	国債	70,673	63,069
		その他	79,365	74,119
共済事業	長期共済保有高	3,313,661	3,183,784	
	短期共済新契約掛金	9,615	9,311	
購買事業	購買品供給高	32,091	31,320	
販売事業	販売品販売・取扱高	38,694	37,996	

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

令和2年度(第7事業年度)剰余金処分案

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,586,574,472
2. 剰余金処分額	1,962,467,534
(1)利益準備金	344,000,000
(2)任意積立金	1,400,000,000
農業振興積立金	250,000,000
農業災害積立金	250,000,000
教育研修充実積立金	200,000,000
信用事業システム開発積立金	250,000,000
BIS規制強化対応積立金	250,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	218,467,534
3. 次期繰越剰余金	624,106,938

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合である。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額85,810千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれている。

令和2年度 主な事業活動と成果

令和2年度は、「第2次中期経営計画」並びに「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の2年目として、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、地域の活性化、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

販売事業

米穀は水稻の作況指数が99（前年99）となり、主食用米の収穫量は85,800トンで、前年産比300トンの増となりました。また、集荷数量は令和3年3月末現在で34,043トンとなり、出荷契約に対する集荷進捗は88.3%、前年対比では96.4%となりました。

園芸

島根ぶどうが、販売面でSNSによる宣伝やフォトコンテストを取り入れたことやコロナ禍による巣ごもり需要による量販店需要が活発であったこともあり、kg単価において過去最高の1,359円（税別）となりました。西条柿は、総じて品質は良好であり、kg単価は前年を上回りました。



畜産

乳価において、生乳流通体制の合理化（共販体制）の推進と、乳質改善の取り組みにより、昨年対比で2円のkg単価の向上が図られ販売額拡大につながりました。



資材

肥料・農薬については、昨年に引き続き肥料統一銘柄7品目、農薬統一銘柄10品目を継続して選定し、品目集約による価格低減を図りました。また、価格低減となる担い手直送超大型規格農薬の普及に取り組みました。

信用事業

総合事業体であるJAの特性を生かし、「しまね和牛」をプレゼントするキャンペーンを実施し、農畜産物消費拡大、農家所得の向上に取り組みました。貸出金については、農業資金において、担い手農業者の皆様の借入負担軽減に向けた取り組みとして、各農業資金の保証料（島根県農業信用基金協会）を全額助成しました。



共済事業

担い手経営体や個人農業者に対し、農業経営に関わる様々なリスクへの診断を行う「農業リスク診断活動」に取り組みるとともに、「JALしまね子ども倶楽部」を通じた子育て支援や次世代との繋がりに努めました。

くらしの活動

豊かでくらしやすい地域づくりのため、「食と農に関する活動」「地域貢献活動」「支店ふれあい活動」を三本柱に、コロナ禍による活動制限があるなかで、ふれあい活動に取り組み、食と農、地域とJAを結び取り組みとして、組合員や地域住民とJA役職員が一体となった取り組みを展開し、農協運動の活性化に努めました。



令和3年度 事業方針

農業振興

方針

「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、進捗状況を踏まえ施策に微修正を加えながら、「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に繋がる目標の達成に、全力で取り組みます。

また一方で、大規模自然災害・地球温暖化、生産者減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナウイルスを契機とした生産・消費の変化等課題に直面し、国では新たな技術体系の確立と更なるイノベーション（新たな技術・価値）で実現する「みどりの食料システム戦略」が策定される見通しです。

この生産力向上と持続性の両立を実現する、世界的な脱炭素社会の実現に向け、いかに対応していくか、協議検討していくことが強く求められます。

重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援

- ③ J Aの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献
- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み
- ⑪ 農業者のセーフティネットへの加入促進

全 般

くらしの活動

豊かなくらし・地域づくりを目的とし、「食と農に関する活動」「地域貢献活動」「支店ふれあい活動」を三本柱に地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

販売事業

「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計

画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・T A Cと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料事業を積極的に取り組み、より一層のサービスの充実に努めます。

信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

また、コロナ禍での「新しい生活様式」に見合った金融サービスの提供をすすめます。

共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、3Q訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践するとともに、次世代・次々世代など新たなJ Aファン（理解者づくり）により事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施を図るとともに、コンプライアンス態勢を強化・徹底します。



功労者表彰名簿

第7回通常総代会開催にあたり、昨年9月の総代任期満了により総代を退任された皆様のなかから、統合前を含めて長年に渡りご尽力をいただいた皆様方を讃え表彰いたします。

くにびき地区本部

松本 英雄 諏訪 智子 寺本 圭介 山根 輝子
村上 幸可 渡部 文明 中村 礼三 立石 琢雅
石川 廣 長野 三紀男 山本 慶一 広江 朝夫
平田 敬市

(13名)

出雲地区本部

神谷 湧三 渡部 忠雄 坂根 光紀 飯國 重良
日野 誠一 石橋 貞則 増原 福次 佐貫 英明
塩野 一男 三成 重徳 田口 文雄 大谷 健二
福代 明正 大野 正雄 大矢 操 大原 俊正
大野 正雄 高橋 早苗 浅日 進美 園山 重子 山根 功
高橋 早苗 永瀬 かい子 立石 本行 進美 小村 宏行 野中 敏雄
永瀬 かい子 本行 進美 小村 宏行

(26名)

やすぎ地区本部

池田 重吉 奈良 井祐隆 塩見 秀雄 近藤 誠
原 邦夫 石原 憲次 二岡 嘉昭 近藤 誠
岩田 博実 三輪 正美 原田 貴子 安達 隆夫
古志野 與四郎 山岡 政信

(14名)

斐川地区本部

高木 紀明 陰山 順造 福田 弘道
北村 守 多々納 正夫 山根 英樹 星野 勉

(7名)

雲南地区本部

内田 富正 熱田 孝義 星野 美智子 陶山 治喜
中西 勝子 川上 清照 藤原 西川 勝己 須山 耕二
坂本 美和子 吉田 勉 田部 淳 青木 好満
安部 備造 榎 正美 板持 美明 青木 好満
鳥谷 紀幸 小畑 昇 廣澤 幸博 目黒 幸正
落合 慧 佐藤 茂夫

(26名)

石見銀山地区本部

中村 洋子 杉本 修司 中村 洋子 杉本 修司 奥 治美 佐藤 重利
杉本 修司 奥 治美 吾郷 登久枝

(7名)

隠岐地区本部

上川 正治

(1名)

島根おおち地区本部

荒田 和明 井上 直樹 市原 弘明 三上 好弘
鹿野 好明 品川 喜代市 岸 忠良 小畑 寅男
山田 昇 日高 浩二 下垣 潔 井上 清實

(12名)

隠岐どうぜん地区本部

上田 正子 杵築 憲治

(2名)

いわみ中央地区本部

奥迫 勝実 奥 静雄 山内 満晴 上野 久善
河部 保子 岡田 利広 西谷 コトミ 天野 明
青木 耕二 吉田 虎雄 大島 秀孝 新森 増美

(12名)

西いわみ地区本部

三浦 孝雄 石橋 斎 青木 登志男 波田 地宝
山本 定男 河田 寿樹 長谷川 昇 浦口 傳
平川 巖

(9名)

令和2年9月退任の皆様。順不同。129名

第7回総代会



Q コンプライアンスについて、色々体制を整えているようだが、不祥事が起きないように組織を作っていた
きたい。

A 不祥事を発生させない体制を作っていくため、現在、新たなルールを定め、組織を挙げて徹底を図っている
ところ。職員が二度と同じ過ちを犯さないよう、引き続きリスク管理部を中心に体制を組み立て、再発
防止に取り組んでまいります。

Q 組合員に喜んでもらえる業績還元のある方を一考していただきたい。

A 業績還元はJA全体で1億円を上限に、各地区本部の収支実績に基づき配分し、地区本部で還元を実施して
います。信用共済事業の収益が低下等により収支状況が厳しく、十分に還元できていない地区本部もあり
ますが、営農経済事業改革・信用共済事業改革の取り組み等により収支改善を図るなかで、十分な還元となる
よう取り組みます。

Q 組織運営体制について、理事会制・経営管理委員会制については今後も研究、検討を継続するのか。

A 検討委員会では、経営管理委員会制運営について、コロナ禍の中、視察もできず、制度や実態を正確に確認
することが不十分であり、今後も検討・研究は継続しようということになりました。体制は理事会制により、
当面の事業改革を断行し、持続可能なJAを作り上げるということで意見は一致いたしました。

Q 多収穫米をJAしまねの主力米レベルに持っていくために県市町村と連携して推進していくのか伺いたい。

A 多収穫米の誘導については、今のコメ余りの時に疑問を呈する声も多いものの、外食産業等で安価な米の需
要が一定数あるのも事実なので、良食味米の販路に影響を与えない範囲の、限定的な生産販売は必要と考え
ます。ただ、未だ島根県内では多収実績が乏しく、皆さんへ勧められる品種にないため、まずは安定多収が
得られるよう県と連携しながら試験栽培を積み重ね、県内での生産技術の確立を目指します。

Q 島根県下の地区本部の統廃合・非常勤理事制度について考えを伺いたい。

A 統合当初より、組合員の意思に従って、11の地区本部による「地区本部制」を大
事にしながら運営しています。統合から7年が経過するなか、いろいろな問題や
課題があります。どこに問題があり、どういう運営体制が一番良いのか、組合員
の意見を聞き、整理をしながら次の時代に向かっていきたいと思えます。



輝く50万パワー☆ しまねの女性部！

雲南女性部

地域のみなさんや、
女性部員が元気になる
楽しい活動を行っています

雲南女性部は「JA女性 地域で輝け 50万パワー☆」を活動方針とし、様々な活動に取り組んでいます。

令和2年度はコロナ禍において思うような活動が出来ませんでした。高橋美佐子部長の「できることから始めよう！」を合言葉に「島根タオル帽子の会」の活動に賛同し、雲南女性部全支部でタオル帽子作りに取り組みました。

また、令和元年度からJAグループの家庭雑誌「家の光」を積極的に活用した活動を展開し、雲南地区本部ふれあい課職員が講師を務める講座も行っています。

さらに、健康管理活動として「農業者・女性部健診」乳がん検診、胸部CT検診の受診をすすめ、多くの部員が受診しました。

今年度はどじょうすくい体操やどじょうすくいパラパラで楽しく体を動かし、心身ともにリフレッシュできるような活動も取り入れていきたいと考えています。また、「SDGs」の理解を深め、地域で輝ける女性を目指します。



一所懸命青年連盟

JAしまね隠岐青年連盟

地産地消に取り組み、
農業を通じて、
地域に貢献していきたい

JA YOUTH

かつべ さとし
勝部 聡史さん



JAしまね隠岐青年連盟（以下「農青連」）の勝部聡史さん（27）は、地元隠岐の島町で就農して4年目になります。

県外の大学の農学部を卒業後、地元の建設業者で農業にも取り組む会社に就職し農業を始めました。その会社では、水稲を中心に主にコシヒカリ、きぬむすめ、山田錦を栽培しています。また、隠岐の島ならではの「藻塩米」の生産にも取り組んでいます。

農青連には関係者からの勧めで加入し、盟友と一緒に様々な活動に参加しています。今後について「ハウスを新設し園芸分野にも手を広げていく中で、まずは従業員として会社を支えていきたい」と話す勝部さん。「隠岐の農業を発展させることを考えたとき、一人よりも二人、二人よりも三人と、仲間が多いほどスピード感がでるので、会社で雇用を増やせるような体制をつくり、農青連を通して人とのかかわりを広げていきたい」と今後の意気込みを語りました。



あなたもチャレンジ!

家庭菜園

ニンニク

適期に植え付け、追肥と灌水を行う



中央アジア原産と推定されるヒガンバナ科の多年生草本で、生育適温は15～20度、暑さに弱く、寒さには比較的強い野菜です。栽培は秋に種球を植え付け、初夏に収穫します。

強い香りの成分は硫化アリルで、体内で豊富に含むビタミンB1と結合すると疲労回復効果があります。

品種

温暖地向きでは「平戸」「嘉定」「上海」など、「ニューホワイト六片」は寒冷地から弱暖地にも向く品種です。

畑の準備

植え付け2週間前までに、1平方m当たり苦土石灰200gを施して土に混ぜておき、1週間前に化成肥料(NPK各成分10%) 100gと完熟堆肥を2kg施します。その後、幅70～100cmの畝(ベッド)を作り、穴の間隔が15cm程度の黒マルチフィルムを張ります(図1)。

植え付け

9月上旬ごろに休眠が明けてくるので、種球を小片(鱗片:りんぺん)にばらし(図2)、寒冷地では9月中旬～10月上旬、温暖地では9月下旬～10月中旬に植え付けます。小片頂部を上にマルチ穴(15cm間隔)に深さ5cm程度に浅く植えます(図3)。

わき芽かき

芽出し後に1株から2芽以上出たときは、生育の良い1芽を残して、手で早めにかき取ります(図4)。

追肥・花蕾(からい)摘み

成長が再開する翌春2月と3月に1平方m当たり化成肥料50g程度を追肥しますが、マルチ栽培では所々穴を開けておきます。とう立ちしてつぼみが付いたら、球の肥大に影響があるため花蕾を早めに摘み取ります。畑の乾燥に弱いため、特に春先からの灌水(かんすい)が必要です。

収穫

初夏になり、葉が半分くらい枯れたら、晴天日に抜き取って根を切り落とし、畑で2～3日乾かします(図5)。その後、茎を30cmほど残して切り取り、10球程度を束ねて風通しの良い軒先などにつるします(図6)。

図1 畑の準備

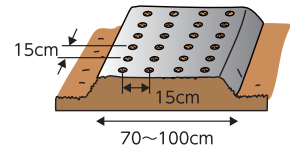


図2 種球の準備



図3 植え付け

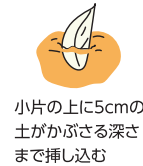


図4 わき芽かき

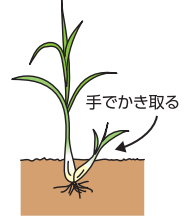
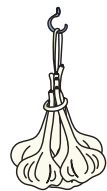


図5 収穫



図6 貯蔵



園芸研究家 成松 次郎

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

理事会情報 (6月30日開催)

【協議事項】

- ①葬祭事業に係る利用料の変更・新設および関連規程の一部改正について
- ②第7事業年度業務報告書について
- ③ディスクロージャー誌2021について
- ④組合と理事との取引(契約)の承認について

- ⑤役員賠償責任保険への加入について
- ⑥育児・介護休業法施行規則等の改正に伴う正職員以外の就業規則等の一部改正について
- ⑦理事の個別役員報酬額の決定について
- ⑧執行役員(執行役員)の個別報酬額の決定について
(紙幅の関係上、報告事項は省略いたします)

組合員からの情報提供窓口の設置について

当組合の監事は、経営の健全な発展に資するため、農協法(法第35条の5)および農協法施行規則(第81条)に基づき、理事の職務の適正な遂行を阻害する行為に関する情報(組合経営に関する事象に限る)の提供を受付けています。

当組合理事の組合経営に関する気になる行為について、封書またはEメールにて下記宛に連絡くださいますようお願いいたします。

島根県農業協同組合 監事会

連絡先: 住 所 〒690-0887 松江市殿町19番地1
Eメールアドレス kanji.hon@ja-shimane.gr.jp
部 署 名 監査部
受 付 監 事 常勤監事

※当組合の業務に関する一般的な苦情については、担当部署または支店で受付けていますのでご利用ください。

※ご厚意による情報提供であっても、誹謗・中傷に類似する内容のものは受付けいたしかねますので、予めご了承ください。

令和3年度 くにびき地区本部 総代説明会開催

くにびき地区本部総代説明会を6月19日、営農総合センターで開催しました。令和2年度の事業報告のほか、令和3年度の事業計画、基本方針など主な内容について報告します。



当日の様子

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、午前・午後との二部制で開催しました。午前中に橋北地区の総代64名、午後からは橋南地区の総代48名が出席しました。

冒頭で、JAしまねの高木賢一専務が「令和3年度の総代会は、昨年同様新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をとる中で開催となり、ご迷惑をお掛けする。コロナ禍での外出自粛により、畜産や花き類などさまざまな農産物に影響が出ている。令和2年度は担い手農家を中心に、国の経営継続補助金の活用提案や申請受付、事業完了までの諸手続きの支援を行った。令和3年度も引き続き、厳しい情勢は続くが目標に向け、役員員一体となり、取り組んでいく。盤石な経営基盤の確立を通じ、組合員のニーズに応えられるよう、各部門で改革をしていく」と挨拶しました。

続いて、栗原令本部長が「コロナ禍の中、ご参加頂き感謝申し上げます。今年4月1日に、島根町加賀地区での大規模火災が発生した。被災された方々心よりお見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症については、昨年の4月

22日から5月6日までの間、一部支店を休業し、事業継続体制を確保するスプリット体制を実施し、アクリル板を設置するなどの対応を行った。農業面では、コロナ禍で中食・外食が減少し、米・肉・野菜の需要が減少。特に米は、米余りで米価が下落傾向にあるが、組合員・生産者の期待に応えられるよう下降抑制に努めていきたい。一方、産直の売り上げは過去最高7億円を越え、果籠りと地産地消で一定の伸びしろがある。令和3年度も厳しい情勢が予想されるが、こういう時こそ、食と農を基軸とした地域に根差した協同組合をスローガンにして取り組んでいく」と、今後の意気込みを語りました。

その後、議事に入り、JAしまねとくにびき地区本部の令和2年度の事業報告、新年度の事業計画などについて説明し、出席者から意見、要望が出されました。（別14ページ参照）

こうした意見や要望を踏まえ、くにびき地区本部が組合員の皆様から信頼され満足されるよう、今後も役員一同協力して事業運営にあたって参ります。

くにびき地区本部の概況

令和2年度事業実績（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
事業総利益	3,397,035	事業利益	227,947
信用事業総利益	1,323,686	事業外利益	251,065
共済事業総利益	1,146,447	事業外費用	57,525
購買事業総利益	411,070	経常利益	421,487
販売事業総利益	121,601	特別利益	36,110
保管事業総利益	13,796	特別損失	104,032
加工事業総利益	12,814	税引前当期利益	353,565
利用事業総利益	122,018	法人税・住民税等	39,654
葬祭事業総利益	242,582	当期剰余金	313,911
宅地等供給事業総利益	13,873		
その他事業総利益	978		
指導事業収支差額	▲11,830		
事業管理費	3,169,088		

※本店配賦を含む。

くにびき地区本部 組合員数（令和3年3月31日現在）

（単位：人、団体、戸）

正組合員			准組合員			合計	戸数		
個人	法人・団体	合計	個人	法人・団体	合計		正組合員	准組合員	合計
9,590	35	9,625	29,360	126	29,486	7,483	22,534	30,017	

くにびき地区本部 役職員の状況（令和3年3月31日現在）

（単位：人）

役員		合計	職員				合計
常勤理事	非常勤理事		総合職	専門職	一般職	（うち営農指導員）	
2	3	5	236	31	20	22	287



高木専務



栗原本部長

令和2年度 事業報告

令和2年4月1日
～令和3年3月31日



柿の初選果（10月2日 くにびき地区本部本庄選果場）



松江市との農政意見交換会（11月12日 くにびき地区本部）

営農指導・販売

（エ）鶏卵の販売高は37,992千円（前年度36,691千円）となり、コロナ禍における「巣ごもり需要」の影響で増加しました。

保 管

- 米の集荷・検査買入数量は、下佐陀倉庫1,582 t（前年度1,632 t）、ライスターミナル「米蔵」1,209 t（前年度1,186 t）の実績となりました。また、穀物検査業務については、国の検査基準に従い適正な検査を実施しました。

加 工

- 雲州人参一出荷量は83.7kg（前年度77.6kg）となりました。また、「種苗確保」に向けた取り組みも行いました。
- 茶——番茶は、4月の気温が高く、摘採時期が早い傾向にありました。一方、秋番茶は、夏以降の降雨が十分にあった事で順調に生育し、収穫量が増加しました。茶工場取扱量は、一番茶、秋番茶の総計が22.6 t（前年度24.2 t）となりました。また、全役職員による販売活動（サンサン運動）を継続実施し、イベント用の一番茶販売等を新たに実施しました。

利 用

- 育苗—水稲育苗は、86,817箱（前年度91,073箱）の育苗を行いました。野菜苗は、14,661トレー（前年度15,113トレー）の育苗を行いました。花卉生産農家向けにトルコギキョウを162トレー（前年度162トレー）育苗し、育苗施設の稼働率向上に努めました。
- 米穀乾燥調整施設—カントリーエレベーター「稲蔵」927 t（前年度1,127 t）、鹿島ライスセンター171 t（前年度178 t）、南ライスセンター366 t（前年度393 t）の処理実績となりました。
- 無人ヘリ防除—水稲の防除面積は、323.9ha（前年度333.8ha）の散布実績となりました。

購 買

- 生産資材—
ア. 生産資材予約とりまとめは、組合員宅へ注文書を直送する「個別配布方式（ダイレクトメール）」で、年間3回の配布予約取りまとめを実施しました。また、水稲肥料・農業の早期予約取りまとめを実施し、利用高奨励措置を設けながら、生産資材の供給拡大に努めました。
イ. 生産資材低減対策の一環として、令和3年産水稲資材予約価格について、県下で共通に採用されている肥料・農業を統一品目として、安価に提供できるよう価格を設定し、統合メリットの創出に取り組みました。
ウ. 全農域物流による週5日の配送による、組合員サービスの向上に努めました。
エ. 集落営農組織・認定農業者等の担い手を対象に、提案型訪問活動を実施し、超大型規格や低コスト農業などニーズに即した資材提供に努めました。
オ. 廃棄農業2,746.3kg、廃棄プラスチック17,316.5 kgを回収し、適正処理による環境にやさしい農業の推進に取り組みました。
カ. グリーンショップの営業時間の短縮と定休日の設定により、費用の削減に努めました。
●農業機械—
ア. 農家訪問活動（1担当200戸）の強化を図り、組合員サービスの向上と農機担当者のレベルアップに努めました。
イ. 担い手サポートセンターと連携し、低コストの「共同購入トラクター」提案を行いました。

庭内消費の需要の高まりとAコープへの産直花部門のインショップ化を実施し、販売額は717,126千円（前年比107.0%）と過去最高の販売高となりました。

- 鳥インフルエンザ、豚コレラ等の家畜伝染病予防のため、関係機関と協力し、飼養農家に向けた注意喚起・感染予防措置の励行に取り組みました。
- 水稲—令和2年産水稲の作柄について、田植え後の生育は概ね順調に経過しましたが梅雨明け後、高温が続いた事で全般的に籾数が多くなった一方、9月以降の日照不足により籾の充実が抑制されたため登熟歩合が低下しました。
また、病害虫の発生状況はカメムシをはじめウンカ類、コブノメイガ、イネツトムシの発生量は例年に比べ多く、管内全域でトビイロウンカの坪枯れ被害が散見されました。
全品種の1等米比率は平均49.0%（前年度52.2%）となりました。

（ア）米集荷は、生産者への出荷依頼など集荷対策を実施し、JAへの出荷を促しました。出荷申出数量108,238袋（前年度111,676袋）に対し、集荷実績93,185袋（前年度93,952袋）、申出対比86.0%（前年度84.1%）となりました。

（イ）米卸業者から「きぬむすめ」「つや姫」の要望が強くあり、「コシヒカリ」からの品種転換を稲作ごよみ説明会等で推進しました。

（ウ）「かがやき舞くにびき」「コシヒカリ（無洗米）」と「かがやき舞くにびき」「つや姫（無洗米）」を全役職員によるサンサン運動で販売活動に取り組みました。

（エ）JAしまねで開催する「求評会」に参加する等、契約取引率向上に向けて取り組みました。

- 野菜—「かぼちゃ、馬鈴薯」を重要推進品目と位置づけ、作付推進に併せ、トンネル被覆による促成栽培（かぼちゃ）を推奨し、作付拡大に取り組み、生産者50名（前年度45名）、栽培面積4.5ha（前年度3.5ha）となりました。

- 西条柿—着果数は平年並みで、順調な生育となりました。

（ア）ドライアイス脱渋生果西条柿「こづち」は、県外市場を中心に35.9 t（前年度36.8 t）の出荷量となりました。生果の販売単価は事前の市場商談の結果、高値販売（前年比114.0%）で推移しました。

（イ）東出雲町特産「@ほし柿」は岡山市場、また、「秋の加工時期」は広島市場中心に出荷しました。秋の加工時期の天候に恵まれ、高品質な干し柿が安定的に生産されました。販売面では、東出雲町特産「@ほし柿」が令和元年12月にGI（地理的表示保護制度）に島根県産品として初めて登録された事により、2年産より本格的にGI取得のPR販促を実施しました。

- 牡丹—
（ア）お歳暮・正月向けを中心とした牡丹鉢花について開花調整期間は順調に生育し、消費者需要に対応する数量を確保する事ができ、出荷量は5,586鉢（前年度5,412鉢）となりました。

（イ）苗木用の普通苗の輸出は、生産量の減少により出荷量が12万本（前年度15万本）を下回ったため、新規取引先の開拓ではなく既存の販売先との繋がりに重点を置いた販売に取り組みました。

- そば—播種時は適度な降雨があり発芽は良好で、8月下旬以降天候は好天に恵まれた事もあり生育についても良好でした。収量は68 t（前年度50 t）となりました。

- 畜産—
（ア）子牛価格は、年度当初は安値となりましたが、年度末には持ち直しました。子牛出荷頭数は152頭（前年度153頭）と前年並みでしたが、販売高は102,922千円（前年度110,358千円）と減少しました。

（イ）和牛繁殖雌牛の生産性向上のため、県単・市単事業等の補助事業を活用し、優良雌牛を42頭（前年度19頭）導入更新しました。
（ウ）乳量は383 t（前年度466 t）で、販売高は48,455千円（前年度57,955千円）となりました。また、乳用牛への和牛受精卵移植は29頭（前年度43頭）となりました。



さんちよく営農塾講座
（3月9日 中海干拓地）

主な農産物販売高

米	746百万円
野菜	1,020百万円
果樹	92百万円
畜産物	213百万円

- JAしまね農業振興支援事業により、「新規就農者等育成支援リースハウス事業」を実施し、指屋干拓地にリースハウス3棟（ミニトマト2棟、アスパラガス1棟）を設置し園芸産地の育成と新規就農者等の育成・確保に向けた取り組みをすすめました。

- 「経営安定対策」の円滑な事業実施に向け、申請手続きの支援等に積極的に取り組みました。◆水田活用の直接支払交付金交付実績件数334件◆畑作物の直接支払交付金交付実績件数35件。

- 「良質米生産に向けた品質転換」に向けて、「コシヒカリ」から「きぬむすめ」「つや姫」への品種転換に取り組み、出荷実績は「きぬむすめ」が1,117.4 t（前年度1,155.1 t）、「つや姫」が629.7 t（前年度586.4 t）となりました。「コシヒカリ」については750.2 t（前年度761.1 t）の減少となりました。

- 水田を活用して栽培のできる作物である新規需要米については、平成30年産米からの生産調整見直しもあり、飼料用米の作付面積が68.8ha（前年度86.3ha）となりました。耕畜連携によるWCS用積は99.3ha（前年度97.7ha）となりました。

- TAC（タック：担い手農家に向くJA担当者の愛称）による訪問活動を実施し、担い手農家のニーズの把握や各種提案活動に取り組みました。また、担い手サポートセンターを中心に農事組合法人・集落営農組織の組織強化のための支援を行いました。また、新規就農者の育成・確保・経営の安定化に向け、行政と連携し支援に取り組みました。

- 農業経営支援として、農業所得収支データ404件、農業簿記データ還元16件のデータ提供を行いました。また、担い手、集落営農組織への青色申告支援に併せ、「くにびき農業青色申告会」会員への記帳・申告相談対応のほか農業簿記帳代行を12件対応しました。

- 「松江八束くにびきキャベツ部会」と連携し、美味しまね認証マークを有効活用した販売促進を行うとともに、継続認証に向けモデル農場を設置し、生産工程管理基準の遵守を目的とした巡回指導を定期的に実施しました。

- 「農地利用集積円滑化団体」として、関係機関との連携により農地中間管理事業を活用した農地有効活用や農用地利用調整委員会の開催による担い手農家や集落営農組織への農地利用集積に取り組みました。

- 産直事業は、新型コロナウイルスの影響により家



サンサン女子大講座
(7月23日 中海干拓地)



カーブミラー寄贈
(9月24日 松江市役所)



ねんきん感謝デー
(10月20日 宍道支店)

組織・広報・くらしの活動

- 農政会議—関係団体と連携した行政との懇談会を開催し、農業施策等の要望・意見交換を行いました。
- 青年連盟—地域の幼稚園に対し「食農教育・農業体験」を開催し、農業理解促進に取り組みました。
- 女性部—教育文化センターSan・san館を活用して「食」と「農」をテーマとした活動を進めました。また、J A しまね広報誌での「松江に伝わるふるさと料理」や、山陰中央新報の「かあちゃんの一押し献立」において料理を紹介しました。
- 「女性大学（サンサン女子大）」—第6期生48名が卒業を迎えました。
- 広報—J A しまね広報誌「J A しまねびより」やホームページ等により広報活動を展開しました。
- 教育文化活動—「家の光三誌（家の光・ちゃぐりん・地上）」「日本農業新聞」など教育資料の普及拡大に取り組みました。
- くらしの活動—組合員・地域住民との絆づくりの一環として「支店だより」を全支店が発行し、より身近な情報発信に取り組みました。◆パートナーセンター（結婚相談所）による婚活支援を実施しました。◆「地域貢献・地域活性化」に取り組むグループ・団体等の多様な取り組みについて、「2団体」を表彰し「1団体」に普及支援を実施しました。◆「赤い羽根共同募金」の街頭募金や「緑の募金」等の社会貢献活動に取り組みました。◆子供のいる「生活困窮世帯」に必要な食糧等を届ける「フードバンクしまね“あったか元気便”」に協力し、食品提供（お米の取りまとめ）に取り組みました。
- 健康管理活動—J A 島根厚生連・行政と連携し、「特定健診（集団検診）」「腹部超音波検査（腹部エコー）」「大腸がん検診」「乳がん検診（マンモグラフィ）」を実施し、健康づくり活動や生活習慣病予防および疾病の早期発見に取り組みました。また、営農経済部と連携し農業法人会会員を中心に、担い手人間ドックに取り組みました。
- 「J A 健康寿命100歳プロジェクト」の一環として行われた「第10回あなたに届けるJ A 健康寿命100歳弁当コンテスト」に女性部が出品しました。
- J A しまね農業振興支援事業・業績還元資金・新型コロナウイルス感染症対策—
◆J A しまね農業振興支援事業
担い手や新たに施設園芸に取り組む農業者・新規就農者へ、農業生産の拡大による農家所得の向上を図るため、「園芸重点5品目およびブロックリー産地拡大」「J A 取得資産リユース事業に係るリース料支援」として、合計で5,826千円の支援を行いました。
- ◆業績還元
「土壌改良剤施用補助」「肥料・農業特価販売」「刈払機・防除機・管理機特価販売」「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」「ねんきん感謝デー」として、合計で11,349千円の還元を行いました。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策
J A しまねの指針に基づき、各職員をはじめ支店・事業所における感染症対策を徹底するとともに、各種会議やイベント等について、中止や開催延期、縮小や書類対応等の対策を実施しました。また、「経営継続補助金」「新型コロナウイルス対策支援事業」「持続化給付金」「高収益作物次期作支援交付金」等の給付金・補助金の情報提供及び申請支援、「新型コロナウイルス感染症対策資金」の貸し出し、女性部が中心となって「フードバンクへのマスク寄贈」や「島根県内の大学等へ玄米寄贈」に取り組みました。

共 済

- 組合員・利用者に感謝の気持ちをお伝えするとともに、絆の強化を目指し、「3Q訪問活動（あんしんチェック）」を実施しました。J A 事業や共済事業に関連した情報提供並びに未請求案件（手術、自然災害など）の解消を目的に、13,647世帯（前年度13,872世帯）のフォロー訪問活動を行いました。
- 共済契約保有高は、満期契約の増加や転換契約・解約等により前年度より減少し、期末保有高は5,459億円（前年度5,671億円）となりました。
- 多発する自然災害や火災にもしっかり備えることができる「建物更生共済むてきプラス」や、生存保障ニーズに即した保障提供を目的として新設した、特定重度疾病共済「そなエール」の積極的なお知らせ活動を中心として、より魅力あるJ A 共済の普及に取り組み、J A しまね長期共済推進目標8,000,000Pに対し実績ポイント8,139,217P※達成率101.7%（前年度8,989,711P）と達成し、普及拡大につながりました。
- 短期共済は、自動車共済の新規獲得および保障内容充実に向け、スマイルサポーター・L A・安心サポーターの連携強化による取り組みを行い、最高水準保障のクルマスター占有率は26.9%（前年度26.1%）となりました。新規・継続を含めた契約件数は増加し21,974件（前年度21,431件）となりました。万が一の自動車事故に際し、迅速な初期対応とネットワークを利用した契約者サービスの提供に取り組みました。
- 高齢者層を主体とした災害・事故等の保障充実に向け、99歳まで加入が可能な傷害共済の普及に取り組み、契約件数は9,319件（前年度9,345件）となりました。
- 交通安全啓発活動として、管内の中学校へ交通安全反射材（タスキ1,221枚、テープ1,839枚）、松江市ヘカーブミラー（36基）ポールコーン（10本）を贈呈しました。

経営・管理

- J A しまね第2次中期経営計画（令和元年度～令和3年度）実践2年目にあたり、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に向け、くにびき地区本部における重点実施事項の進捗管理に取り組みました。
- 経営管理の高度化に向け部門別・場所別月次決算を行う、事業計画に基づいた進捗管理の徹底を図るとともに、法令等に基づく適切な会計管理に取り組みました。
- J A しまねの方針に沿いつつ「自己改革」を確実に推し進めるため、「営農・経済事業改革」として「生産資材関連事業の効率化（Aコープふるえ・やくもへの産直花インショップ化等）」と、「米穀関連施設の効率化（北育苗センターから中海干拓育苗センターへの機能移管等）」に取り組みました。また、「信用・共済事業改革」として、「事務効率化に向けた支店機能の見直し（一部支店融資事務集約）」と「A T M の見直し（A T M 2台設置箇所⇒1台削減＝合計▲6台）」に取り組みました。
- 「J A しまね総合ポイントカード」について、窓口・店頭等において積極的な加入促進に努め、組合員数に対する加入率は県下平均62.7%に対し、当地区本部では97.1%となりました。また、強固な組織基盤づくりと次世代の組合員化に向けて「組合員加入促進」に取り組み、資格変更を含め正組合員は81名（前年度105名）、准組合員は618名（前年度588名）の加入となりました。なお、正組合員の構成比率は男性74.5%、女性25.2%、法人・団体0.3%となりました。
- 「コンプライアンス・プログラム」に基づく行動計画を策定し、年間を通じてその具体的実践を行い、コンプライアンス遵守・不祥事未然防止の強化に取り組みました。
- 地区本部役員無通告検査実施要項に基づき、内部監査指摘事項等の改善状況のチェックを実施しました。

葬 祭

- コロナ禍の中、葬儀形態ニーズの変化に合わせ、利用者の要望に応える葬儀施行に取り組みました。
- 葬儀施行件数は606件（前年度613件）となり、うち「虹のホール」の会館利用は414件、会館利用率68.3%（前年度439件、71.6%）となりました。
- 葬祭センター（虹のホールこぼく横）での葬儀無料相談会の開催や、自宅等への出張相談に積極的に取り組みました。
- 多様な葬儀形態に応えるため、小規模葬・家族葬等をより安心して執り行えるよう、虹のホールおおほの改装を行ないました。

生 活

区分	R2実績	備 考
自動車	284,996千円	車両販売255,442千円、整備部品29,554千円他
LPガス	260,916千円	供給246,435千円、ガス器具14,481千円
生活資材	73,929千円	シロアリ工事37,679千円、テレフォンショップ33,197千円、ムスイ他3,053千円
合計	619,841千円	

資産管理

- 組合員の資産管理および高齢化対策並びに次世代対策として、資産相談センターにおいて相続を中心とした相談業務に取り組み179件（前年度177件）の相談に対応しました。

信 用

- 個人貯金獲得の取り組みとして、夏と冬の定期貯金キャンペーンを精力的に取り組みました。
貯金残高は1,365億5百万円（前年度1,344億13百万円）、平均残高1,420億6百万円（前年度1,349億8百万円）となりました。
- 農業資金の取り組みとして、T A Cとの情報連携強化を図り、低利で利用しやすい資金の提供に努めました。新規貸出実績243,858千円（前年度148,779千円）となりました。
- 個人貸出金については、住宅・マイカー・教育ローンを中心に取り組み、特に子育て世帯を中心に、J A しまねで借入れ頂く「魅力ある金利」を提案可能とした、「子育て応援宣言」を引き続き実施しました。
また、休日にJ A しまね統一のローン相談会を1回開催（他にコロナウイルス感染拡大の影響により中止1回）しました。貸出金残高は485億65百万円（前年度480億40百万円）、平均残高485億27百万円（前年度479億42百万円）となりました。
- 年金指定口座獲得の取り組みでは、受給権が発生する方への訪問や無料の年金相談の受付を随時行い、新規指定口座の獲得に取り組みました。また、J A 以外の受給者へ向けた年金指定替え訪問を取り組みました。令和2年度3月末の年金受給者数は14,118名（前年度14,179名）となりました。また、プレ年金受給者層へは年金予約獲得訪問を行い207件の予約実績（前年度216件）となりました。
- 無料税務相談会を管内10会場（開催回数31回）で開催し、相続・贈与税や所得税を中心に82件の相談に対応しました。

基本方針

令和3年度 事業計画

令和3年4月1日
～令和4年3月31日

J A運営面では、人口減少や高齢化、地域経済の縮小は全ての事業に影響を及ぼし、長引くマイナス金利政策の影響に加え「新型コロナウイルス感染症拡大」により、収益が大幅に減少しています。そして、この非常に厳しい状況は今後も続くことが予想され、J Aしめねとして「持続可能な経営基盤の確立」は喫緊の課題となっています。

こうした中で、当地区本部では、本店と連携し「営農・経済事業改革」及び「信用・共済事業改革」等の様々な経営改革に着手することで、地域農業生産基盤の維持と担い手育成支援等の農業振興をすすめる、「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を柱とした「J A自己改革」の実現に向けて役員一丸となって取り組んでまいります。

また、「第2次中期経営計画」と「農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、地区本部重点実施事項を主体に各事業総力を挙げて取り組み、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立を目指します。

主な重点実施事項

<営農・農業振興>

- ①地域農業を支える多様な担い手の育成と支援
- ②良質米生産の推進と結びつきを強化する販売対策
- ③水田フル活用による農家所得向上と多様なニーズに対応した生産体制の強化
- ④園芸産地の育成・拡大と販売対策
- ⑤優良雌牛保留対策等の継続的な事業活用による更新・増頭対策
- ⑥産直振興による地産地消の推進
- ⑦農業所得向上を目指した営農指導体制の強化
- ⑧生産コストの低減
- ⑨農畜産物の安全・安心への取り組み

<くらしの活動・その他事業>

- ①食農教育、農業体験教室、料理教室、地産地消等への取り組みによる「農」と「食」の理解促進
- ②家の光三誌等の活用を通じた教育文化活動や生きがいの場づくりの創出の展開
- ③女性組織、青年組織等の組織活動の活性化及びJ A女性大学等の充実

- ④支店等を拠点としたふれあい活動の展開による組合員のメンバーシップの強化と地域貢献活動への取り組み
- ⑤地域のライフラインの一翼を担う地域貢献における役割発揮
- ⑥生活購買事業の取り組み
- ⑦資産管理事業・相続相談の取り組み
- ⑧葬祭事業の取り組み

<信用事業>

- ①農業メインバンク機能の強化
- ②生活メインバンク機能の強化
- ③組合員・利用者接点の再構築

<共済事業>

- ①強固な事業基盤の確保と次世代対策の強化
- ②均質な利用者サービスの実践による利用者満足度の向上
- ③身近で親切なサービスの提供と迅速・適正な自動車損害調査体制の実現

<地区本部運営>

- ①組織基盤強化
- ②経営基盤強化
- ③協同組合としての意識改革と人材育成

主な経営改革の取り組み

<営農・経済事業改革>

「生産資材関連事業の効率化（J Aグリーン・グリーンショップの収支改善）」と「米穀関連施設の効率化（鹿島ライスセンターの効率化）」に取り組みます。

とりわけ、(株)Aコープ西日本と共同で運営している「エコロかわつ（Aコープ、J Aグリーン）」は、近年、施設・設備の老朽化が進み、近隣に競合店舗が相次いで進出する等の影響で「Aコープかわつ」の収益が減少傾向にあり、取り巻く環境は厳しさを増しています。

そのような中、(株)Aコープ西日本より、老朽化が進む「Aコープかわつ」閉店に向けた対応方針が示されました。「エコロかわつ」の存続に向けて検討を重ねましたが、J A単独では同施設を維持運営していくことは困難となり、廃止に向け「J Aグリーンかわつ」が展開してきた購買・販売事業は、「新たな産直品販売体制の構築」と「現行の購買品供給物流体制の強化」を図ることで、組合員・利用者への影響を最小限に抑えるよう協議・検討を進めます。

<信用・共済事業改革>

「事務効率化に向けた支店機能の見直し検討（4ブロック体制の構築、融資事務の集約）」と「A T Mの見直し（不採算A T Mの廃止）」に取り組みます。

令和3年度事業収支計画（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
事業総利益	3,125,391	指導事業収支差額	▲27,135
信用事業総利益	1,195,917	事業管理費	3,111,818
共済事業総利益	1,016,376	事業利益	13,573
購買事業総利益	408,510	事業外利益	225,926
販売事業総利益	113,870	事業外費用	46,251
保管事業総利益	16,614	経常利益	193,248
加工事業総利益	16,508	特別利益	0
利用事業総利益	116,826	特別損失	56,237
葬祭事業総利益	250,139	税引前当期利益	137,011
宅地等供給事業総利益	16,545	法人税・住民税等	47,487
その他事業総利益	1,221	当期剰余金	89,524

※本店配賦を含む。

総代説明会 Q & A



石倉政司総代



水野正美総代



松浦良明総代



青山嘉夫総代

栗原本部長
近年の経済情勢、農業情勢下、隣県や全国的にみても「持続可能な経営基盤」を維持するため支店や施設等の統廃合・見直しがなされている。当地区本部も例外ではないが、組合員に与える影響が最小限となるよう店舗・施設等の見直しを図っている。経営基盤の維持のみならず組合員サービス面も考慮し、一連の改革を進めているのでご理解を賜りたい。

(古江) 松浦良明総代
エコふるえ(JA複合施設)は湖北地区(古江・秋鹿・大野)の組合員にとって、農業・生活面から重要な施設であると考えており、店舗等の施設が地域から無くならないか危惧している。このところ、改革の一環であると思うがグリーンふるえでは取り扱う生産資材の品数が減少するなどサービスの低下を感じている。また農地や農業経営の集約化が進む中、小さな農家を切り捨てるような流れにあるのではないかと思える。このような状況の中、小規模農家にとって、JAの存在意義が希薄化していると感じる。

奥原副本部長
県域5品目、さらには当地区本部独自品目の生産拡大を図るうえで、作物別指導員を配置し、専門性を発揮した指導体制を拡充していく。また、指導員自らが対象となる作物を栽培し、経験に基づいた具体的なアドバイスができるよう指導を実施する。

①午前の部 (朝酌) 青山嘉夫総代
県域で取り組む園芸重点5品目、くにびき地区本部独自で振興される「かぼちゃ・馬鈴薯・レタス」の各作物に対し、営農指導はどのように対応していくのか聞きたい。
また、組合員に対し、生産現場の目線に立った営農指導を今後も期待したい。

(八雲) 石倉政司総代
(1) 大変厳しい環境の中、組合員への業績還元等をいただいたこと感謝している。
決算状況も踏まえ、事業利益を着実に確保していくことが今後求められるが事業基盤を支える正組合員の年齢構成はどの

栗原本部長
大型産直店舗を運営しようとする場合、管内で生産される野菜等の供給量では安定的な運営が困難であると試算がなされた。また、大型産直店舗となると、当地区本部だけではなく、他地区本部・他業種との連携が必須となるが諸事情により調整が難しく見送りとなった経緯がある。
奥原副本部長
過去に検討した際には松江市と協議を進めており、大型産直店舗として集客力を高める為には産直のみならず生鮮物(肉・魚)をはじめとした複合要素を備えた店舗形態が求められることとなったが、他業種との調整がつかず現在に至った。

②午後の部 (東山雲) 水野正美総代
全国的には大型産直店舗を運営しているJAもあるが、当地区本部では大型産直店舗の設置について検討された経緯はあ

また、今後、管内の農業・農地を守るためには戦略の一つとして農地・農業経営の集約化も必要だと考えますが、国が定める「食料農業農村基本計画」の中でもあるように小規模・家族経営農家の皆様も「多様な担い手」として役割を発揮していただく必要がある。決して切り捨てるといった考えはなく、地域の様々な規模の組合員が丸となり地域農業を支えていくことが大切であり、今後ともご理解、ご協力を賜りたい。

今岡部長
(2) 利用環境の整備等の一環として、県内他企業とタイアップし、利用できる場所を増やしていく。また、当地区本部のグリーン店舗では1円単位で支払い時にポイントを利用することが可能である。失効までの期間は付与時から2年後の12月末としており、一定の期間を設けているところ。今後、ポイントに関して周知を図り、更なる利便性の向上を目指す。

高木専務
(1) 他地区本部でも次世代対策の一環として、担い手確保に向け集落営農組織の組織化などを推し進めている事例もある。この次世代対策は組合員が抱えるそれぞれの事情にきめ細やかに対応することが重要であり、JAしまねの大きなテーマとして今後も取り組むことが必要である。

栗原本部長
(1) 4/9時点ではあるが、当管内での正組合員数は9950名となっており、70歳以上が占める割合は56%、60歳以上では82%となり、大層を高齢者が占めていることになる。
このような中、次世代対策を講じていく必要があるが、具体的には支店における貯金等の相続対応、TACによる農業の事業継承を行う中で次世代へのアプローチを行っている。

ようになってきているのか。また、組合員が高齢化する中で次世代対策はどのように行うのか伺う。
(2) 総合ポイントについて(総代会資料P202)ポイントの利用環境の整備等について拡充が必要と思われる。また、レジ支払い時にポイントの利用ができないことや、ポイントの失効までの期間が早いように思われる。

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

カボチャを重点振興品目に！ 6月下旬より共販出荷を開始

くにびき地区本部は重点品目のカボチャについて、6月25日、中海干拓研修センターで「目合わせ会」を開催し、生産者やJA職員、松江市の担当者など20名が参加しました。

6月28日より、松江市内の市場を中心に広島や大阪の市場に向け、共販出荷を開始するため、出荷する際の規格や品質基準を確認する目的で開催しました。

当日は、指導販売課の門脇功一課長補佐から「くにびき地区本部の重点品目生産振興に格別のご協力を頂いており、関係機関と協力し生産者のバックアップをしていきたい。また、くにびきカボチャの特産化に向け協力して頑張っていきましょう」と冒頭のあいさつがありました。続いて、同課の犬山浩二係長・門脇葉指導員が出荷規格・集荷方法について注意点を述べました。

参加者から出荷について「値段は去年と比べてどうか」という質問が出ると、二人は「皆さんのご期待にこたえられるように、価格交渉を精一杯頑張っていきたいと思えます」と答えていました。

その後、参加者は出荷前のカボチャを実際に手に取り、品質基準を確認しました。



出荷規格を確認



犬山係長の話に耳を傾ける参加者

くにびきカボチャの出荷開始 100tの出荷を計画

くにびき地区本部が重点振興品目として取り組んでいる「くにびきカボチャ」の出荷が6月28日から始まりました。

「くにびきカボチャ」は、3月から5月にかけて50戸の生産者が定植を実施しました。4月の霜害・風害、5月の少雨の影響を受け栽培が困難な状況ではありましたが、各生産者の生産技術の向上により、出荷につなげることができました。

出荷初日は、規格ごとに選別し、箱詰した約3tのくにびきカボチャを県内や関西、山陽の市場に向け、出荷しました。

中海干拓地でカボチャの栽培に取り組んで3年目になる大根島ファーム吉岡の吉岡伊代さんは「作業に慣れ、ツルの管理が早くできるようになったので、今年収穫量が多かった。少雨の間に手入れし、5月植えの生育も順調」と話しました。

指導販売課の犬山浩二係長は「くにびき南瓜（ブラックのジョー）も栽培3年目を向かえ管内生産者へ十分な普及ができ、栽培技術も向上しています。果皮が薄く料理がし易く、ほくほくとした食感で甘みの強いくにびきカボチャをたくさんの方に食べて頂きたい」とPRしました。今年度は、100tの出荷を計画しており、出荷は8月下旬まで続く予定です。



大根島ファーム吉岡の方々



ロゴ



集荷の様子

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

JA
自己改革
実践中
JAグループ鳥取

くにびき地区本部情報

良質米栽培に向け、指導会を実施 つや姫の栽培法を学ぶ

くにびき地区本部は6月29・30日に管内4か所で「令和3年産米つや姫栽培指導会」を実施し、計44名が参加しました。

同指導会は、特定の条件の下栽培する「特別栽培米」であるつや姫の栽培管理指導を通じて、良質米生産につなげ、農業所得の増大を目指そうと開催したものです。

当日は、肥培管理や収穫調整など今後の栽培管理のポイントや3年産つや姫の出荷に際しての注意点を説明しました。また、竹矢町にあるモデル圃場の場所や、稲の適切な葉色・茎数についても確認しました。

本店営農対策部営農指導企画課の山本朗営農技監は「これからの時期は特に水の管理が重要になる。生育中期の中心しは少しひびが入る程度にし、極端に行わないこと。穂揃い期には水不足に注意してほしい」と説明しました。

参加した安達和朗さん（鹿島町）は「つや姫は90a栽培している。水の管理方法について参考になったので、良質米栽培に向け活かしていきたい」と意気込みました。



つや姫の栽培管理について説明する山本技監



指導会の様子

JAカップ松江・隠岐地区予選大会が開催 乃木ライオンズ惜しくも準優勝

JAカップ第38回鳥根県学童軟式野球選手権大会松江・隠岐地区予選大会が7月22日から25

日の4日間、鹿島町の深田運動公園野球場他1球場で開催され、22チームが競い、隠岐アキレスが優勝しました。隠岐アキレスは前身の西郷アキレスから名前が変わって初の優勝となりました。

同大会は地域スポーツの振興を目的に、県軟式野球連盟などが主催し、JAしまね、JA共済連島根が特別協賛しています。試合は4日間にわたるトーナメント戦で、白熱した戦いが繰り広げられました。

決勝は、4回までに8点を先制された乃木ライオンズが必死の追い上げを見せましたが、3-8で惜しくも敗れました。30度を超える猛暑の中、両チームともに塁に出たランナーを盗塁やバントでしっかりと次の塁に送り、着実に点に結びつけるなど積極的な試合展開となりました。

閉会式では、来賓を代表し、くにびき地区本部の奥原展芳副本部長が「コロナ禍で昨年は残念ながら中止となったが、野球連盟と山陰中央新報社の方々のご協力で無事開催することができた。優勝した隠岐アキレスには、22チームの代表として県大会も頑張ってもらいたい」と話しました。

県大会は8月21日と22日の2日間、松江市営球場で開催されます。



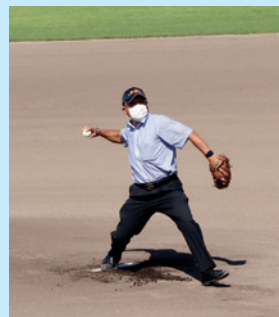
決勝戦の様子



奥原副本部長から表彰を受ける準優勝の乃木ライオンズ



優勝した隠岐アキレス



始球式を務めたくにびき地区本部の奥原展芳副本部長

地域活性化に向けた地域貢献活動に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

お米作りの出前授業 くにびき青年連盟が園児と交流



田車体験をする園児

授業の様子

くにびき青年連盟（上山根有史委員長）は7月12日、育英北幼稚園つき組（年長5歳児クラス）の園児30名に、お米作りについての出前授業を行いました。
園児とは、6月1日に田植えを行っており、お米ができるまでをもっと詳しく知り、お米がどうと実施したものです。

当日は、上山根委員長と野津喜洋盟友が先生となり、授業を開始しました。お米ができるまでの過程や食事の大切さなどを、スクリーンに映し出された画像やバケツに入れた稲を見ながら説明しました。また、盟友が持参した

田車や米俵、玄米の入った30kgの米袋に触れたり、一緒に植えた稲の生育状況を確認するなど、園児たちと楽しく交流しました。
最後には、食農教育をすすめる子ども雑誌「ちゃぐりん」8月号をプレゼン

トし、お米の授業を締めくくりました。

授業を受けた三島芽奈ちゃん（5）は「田車などを押すのが楽しかった。育った稲を見るのが楽しみ」と笑顔で話しました。

10月には、稲刈りを体験する予定です。



記念にポーズ！

子育て応援イベント開催 親子で農業体験を楽しむ

くにびき地区本部は6月26日、親子で農業体験を楽しむ「子育て応援イベント」を開催しました。

これは、親子で農業体験を行い、農業に関する理解を深めていただくことを目的として企画されたものです。

当日は24世帯81名が参加。同地区本部前花壇に植えたタマネギの収穫と、プラントナーで栽培できるエダマメの植え付けに挑戦しました。

まず営農指導員が「今年のタマネギはとでも大きく育っています。根が張っているので横に倒すよう注意して収穫してください。収穫後は乾燥させて風通しの良い場所で保管してください」と説明。子どもたちは、大きく育った「おぼけタマネギ」に驚いたり、持ち上げたタマネギを親に見せるなどして収穫を楽しんでいました。



タマネギを収穫する子ども

その後、親子で協力してプラントナーへ土と肥料を移し替え、しっかりと混ぜ合わせたものにエダマメの種子を植え付けました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、短時間ではありましたが、親子で「農」と触れ合っていたり、機会となりました。

イベント終了後には「親子で良い体験になりました」「子どもたちが楽しそうだったので非常に満足です」と喜びの声も寄せられました。



大きなタマネギが採れて大満足！



説明を聞きながら土づくりをする参加者

組合員のアクティブメンバーシップ確立に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

サンサンフレミズ マスク美人になろう！マスクチャーム作り

くにびきフレッシュユミズ部会（サンサンフレミズ）は7月3日、教育文化センターSan・san館で「マスクチャーム作り」講座を行い、部員16名が参加しました。

マスクチャームは、マスクのゴム部分に引っ掛けるようにして着けるアクセサリで、味気ないマスク姿も華やかな印象にすることが出来ます。

当日は、ビーズスキルインストラクターの長瀬美和さんを講師に招き、マスクチャーム作りに挑戦しました。作り方やポイントについて解説を受けた後、ビーズやクリスタルなどのパーツを選び、作業を開始しました。参加者は、細かい作業に悪戦苦闘しながらも、講師のアドバイスを受けながら作品を完成させました。その後、お互いに来映えを見せ合い写真撮影をするなど、盛り上がり、「自分好みのデザインで作ることができ満足」「マスクチャームを着けて外出するのが楽しみ」と笑顔で話しました。



完成したマスクチャーム



マスクチャームで耳元を華やかに

農機自動車合同展示会開催 新車や便利な農機具が勢ぞろい

くにびき地区本部は、6月26日、27日の両日、農機自動車センターで合同展示会を開催しました。2日間で約300名の組合員や地域住民が訪れました。

展示会は、日頃の感謝や利用者の拡大などを目的に毎年開催しています。昨年は農機センターのみの開催でしたが、今年は消毒や検温などを十分に行い、開催することができました。

当日は、最新の農業機械や関連機械のほか最新車を展示しました。来場者は様々なメーカーの最新の車種や機械を試し、便利な機能に驚いたり、慎重に見比べたりして品定めをしながら購入しました。

同日に地区本部で子育て応援イベントがあったこともあり、親子連れの来場者も多数訪れて賑わいを見せていました。



試乗車を体感する来場者



来場者に農機具の使い方を説明する職員

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて取り組んでいます。

～くびき地区本部の取り組み～

丸山島根県知事との農政懇談会 地域農業の振興を目指す

松江市農政会議（清水秋廣会長）は7月6日、サンラポーむらくもで「丸山島根県知事との農政懇談会」を開催し、農業振興について意見交換を行いました。

当日は、来賓のJAしまねくびき地区本部栗原令本部長はじめ本部役員、関係機関など34名が出席。

冒頭、清水会長が「松江市農業は生産に携わる私たちがらが創意工夫し、地域環境に合った農業を展開することが重要。また組織活動としては、生産者と一緒になって取り組み、将来の担い手へ引き継いでいきたい」と挨拶しました。

今回の農政懇談会は、2部構成で行い、第1部の丸山島根県知事による講演では「コロナ禍で飲食店や旅館の営業自粛の影響で農畜産物にも影響が出ている。島根県としても、コロナ対策支援

を行い、落ち込んだ消費を少しでも引き上げていきたい」など島根県農業に対する考えを話しました。

第2部には、上定松江市長に参加してもらい、丸山島根県知事と懇談しました。

出席者からは、水田園芸の取り組みや美味しまね認証、経営指導などについて意見が出るなど、有意義な懇談会となりました。



県内の農業情勢について話す丸山島根県知事



第2部の様子

生産資材定期配送のご案内

産直資材課（物流センター）では、組合員の皆様方からの肥料、農薬等の配送依頼をお受けしております。1袋・1本からでも、お申込みできますのでお気軽にご注文下さい。尚、お申込みの際には下記の点にご注意頂きますようお願い致します。

- ✓ **配送日は月曜日から金曜日です。**
- ✓ **営業日の午前11時30分までにお申込み頂きますと翌営業日に配送致します。但し、ご注文商品の在庫が無い場合は、取り寄せとなりますので、後日配送といたします。**
- ✓ **安全性の観点から毒物・劇物に指定された農薬の配達は出来ませんので、ご了承願います。毒物・劇物に指定された農薬は、JAグリーンかわつ・つだ、グリーンショップふるえでお買い求めください。その際には印鑑を必ずご持参下さい。**



お申込みは、産直資材課（物流センター）

0120-070-233

電話番号 **0852-55-3036**

FAX **0852-32-7899**



不動産売買・賃貸のお問い合わせは くにびき地区本部 資産相談センターまで

★中古住宅や土地のご購入、売却希望、アパートのご入居希望や、お持ちのアパート管理など、何でもお問い合わせください。
お得な組合員割引もございます。

売買の仲介手数料…手数料率を **1%値引きいたします。**
1000万円の売買だと10万円の値引きとなります。

ぜひお問い合わせください



JAしまね くにびき地区本部 資産相談センター
電話 0852-32-3111 FAX 0852-32-7783

おさいふカードの利用方法についてのお知らせ



- 店舗で利用 …………… JAグリーン・グリーンショップで1ポイント1円としてご利用できます。
- お買い物券として交換…………… JAの店舗やAコープ等で使える「お買い物券」として交換。
- カタログ商品と交換…………… 交換商品カタログから選んだJA特産品と交換できます。
- 寄付・募金に使う…………… 福祉団体や福祉施設への寄付・募金ができます。
- 葬祭事業の利用割引特典 …… 組合員の方は祭壇料を10%割引いたします。
さらに「おおぞら」会員にご加入の場合は最大19%割引。
- おさいふカードで割引…………… くにびき地区本部指定店でも会員優遇価格でご利用いただけます。
おさいふカードをご提示ください。

(株)こばやし (松江店、斐川店、三刀屋店)	●ギフト… 5%OFF ※一部特価品は除く
洋服の青山	●店内全商品、割引後価格からさらに… 10%OFF ※一部特価品は除く
はるやま	●店内全商品、割引後価格からさらに… 10%OFF ※一部特価品は除く
マリエ・やしろ(株)	●貸衣装… 10%OFF (店頭受付のみ) ●物販(ブランド品)… 3%OFF ●物販(その他)… 10%OFF
(有)松江エフワン	●紳士服… 5%OFF ※一部特価品は除く
三菱石油(有)ハッピーランド三愛楽山SS	●ガソリン・軽油…店頭価格から 1円/ℓOFF
メガネの三城	●補聴器… 5%OFF ●メガネ一式… 10%OFF ※一部特価品は除く

く に び き 女 性 部 が お 届 け する 松江に伝わるふるさと料理



ベベごはんとさっぱりポン酢！ ズッキーニとパプリカの肉巻き

ベベ貝は、夏にとれる貝です。その貝を使用したごはん、色鮮やかな野菜を使用した肉巻きを紹介します。

【ズッキーニとパプリカの肉巻き】(4人分)

- ・ズッキーニ…………… 1本 <A>
- ・赤パプリカ…………… 1個
- ・黄パプリカ…………… 1個
- ・豚バラ肉(薄切り) …… 200g
- ・薄力粉…………… 適量
- ・塩・コショウ………… 適量
- ・ごま油…………… 大さじ2
- ・ポン酢…………… 大さじ4
- ・すりおろしショウガ…………… 大さじ1

【作り方】

- ①<A>を混ぜ合わせる。
- ②ズッキーニは、へたを取り半分長さにしたものを縦に2等分にし、細切りにする。
パプリカは、へたと種を取り縦に細切りにする。
- ③豚バラ肉は半分に切り分ける。
- ④③を縦に2枚並べて、②の8分の1の量をのせて巻く。同じように8本作り、塩コショウをふり、軽く薄力粉をまぶす。
- ⑤フライパンにごま油をひき、④を並べて中火で焼く。
- ⑥豚バラ肉に焼き目がついたら、①を入れて全体に火が通るまで中火で煮からめ、火からおろし皿に盛り付ける。

【ベベごはん】(4人分)

- ・米…………… 3合
- ・ベベ…………… 150g(殻付き)
- ・ニンジン…………… 30g
- 調味料：1合に10cc
- ・淡口しょうゆ…………… 大さじ2(～3)
- ・酒…………… 大さじ2
- ・みりん…………… 大さじ2
- ・だしの素…………… 少々

【作り方】

- ①米を研いでざるにあげておく。
- ②ベベはきれいに洗い浸る位の水で強火にかける。茹であがったら身と殻に分け、ゆで汁はキッチンペーパーでこして取っておく。
ニンジンはいちょう切りにする。
- ③炊飯器に米と調味料を入れゆで汁・水を分量まで入れる。その後、ニンジンとベベの身を入れて炊く。
- ④炊きあがったらほぐして蒸らす。
- ⑤大葉の千切り、きざみのり、針生姜等好みでのせる。

【ポイント】

肉巻きは、お好みの野菜を加えたり、生姜の代わりにニンニクを加えてもおいしく頂けます。

鹿島支部(左から)
川下千寿子さん
中村 妙子さん
井上紀美枝さん

今月の
料理人



9 月く に び き 地区本部 各種相談会カレンダー(税・ローン)

※各相談とも無料で
お受けしています。

日	曜日	相談会内容	場所・予約先電話番号・時間
6	月	税務相談会	川津支店(TEL:23-2424) 10:00~12:00
7	火	税務相談会	乃木支店(TEL:21-3758) 10:00~12:00
8	水	税務相談会	東出雲支店(TEL:52-2022) 10:00~12:00

※税務相談会のご予約は、開催日2日前までをお願いします。予約先：開催会場となる支店

〇く に び き 統括支店ローン営業センターでは、土曜日(10:00~15:00)に休日住宅ローン相談を実施しています。要予約。

※9月の土曜営業日は11日、25日です。

◆お問い合わせは

☎0120-988-380

9月 ふれあい訪問日

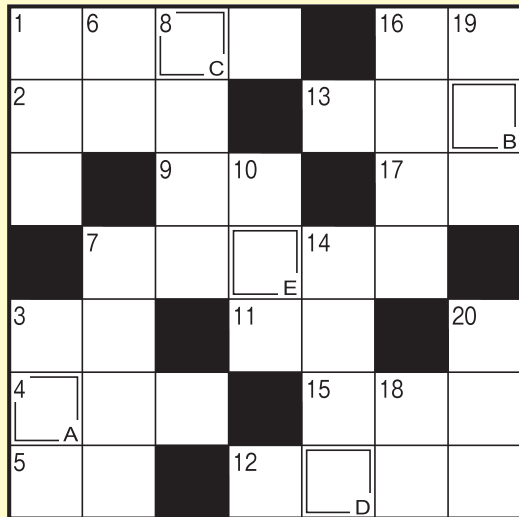
9月15日(水)・16日(木)



CrossWord Puzzle クロスワード パズル

二重マスの文字をA~Eの順に並べて
できる言葉は何でしょうか？

出題●ニコロ



答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

タテのカギ

- ①中東の国の一つ。首都はバグダッド
- ③台風に備えて閉めておこうかな
- ⑥すしのしゃりにのせませす
- ⑦9月の第3月曜日は——の日。国民の日です
- ⑧難しくありません
- ⑩町火消しが火事場で振った物
- ⑭草木も眠る——時
- ⑯夕方「カナカナカナ……」と鳴くセミ
- ⑰ハウスみかんの生産量が日本一の県
- ⑱鼻からあごまでを覆うように着けます
- ⑳十五夜に楽しむもの

ヨコのカギ

- ①米の収穫作業の一つ。手で行うときは鎌を使います
- ②家具などに使う籐(とう)のこと
- ③アルファベットの9番目
- ④フランス語で栗のこと
- ⑤1位が金、2位が銀なら3位は
- ⑦阿倍仲麻呂や吉備真備などがこの役を果たしました
- ⑨鉄砲に込める物
- ⑪チョコがはさみならグーは
- ⑫ボール紙のことをこう呼ぶことも
- ⑬釣りに使う透明な糸
- ⑮宗谷、室戸、足摺といえ
- ⑯何もすることがない状態です
- ⑰喜・怒・哀・——

応募要項

●応募方法

ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・感想を記入して、下記宛先にお送りください。

●賞品

正解者の中から抽選で40名(JAしまね全体)の方に「農協全国商品券」をお贈りします。

●当選者発表

賞品の発送をもってかえさせていただきます。

●宛先・締切

〒690-0823 松江市西川津町1635-1
JAしまね くにびき地区本部 総務課 「クイズ」係
2021年9月3日(金)(当日消印有効)

◆先月号の答え◆

「リツシュウ」



川柳の広場

最優秀賞

雑魚は雑魚なり知恵いっぱい生きてる

出雲市 大福 利彦様

選句者 島根県川柳連盟会長
竹治ちかし先生

(評)「一寸の虫にも…」の例えのように、雑魚にも雑魚の意地があります。力いっぱい生きてるものは、素晴らしい。

優秀賞

炊飯器ふっくら朝の音で焚く

出雲市 小白金房子様

晩婚で隠居お預け喜寿二人

松江市 後藤 竹子様

孫のため付けた手すりに助けられ

浜田市 沖田 邦子様

佳作

梅雨の空はやっぱ青がいい
山菜の季節に山が動き出す
忘れたきことの一つや二つなど
向日葵に背を抜かれたと嘆く孫
藤井二冠より孫がいい母が言ふ

出雲市 野中 花蓮様
出雲市 堀江 英子様
安来市 斎藤美重子様
兵庫県 小田 和子様
吉賀町 村田 綾美様

「家の光」でも俳句・川柳・詩・短歌を毎月募集しています。こちらへもぜひご応募ください！

「家の光」9月号 定価922円。ご購入は、お近くのJAへお問合せください。



JAしまねびよりは、皆様からの俳句・川柳を募集しています。締切は毎月14日必着です。(最優秀賞1句、優秀賞3句、佳作5句)9月号は俳句を募集します。1回のご応募につきお一人様3句までご応募いただけます。

応募方法

俳句または川柳、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、ハガキ、FAX、Eメールのいずれかでご応募ください。
※応募作品は自作で未発表のものに限ります。
※応募作品の一切の権利は、JAしまねに帰属するものとします。
※受賞作品は地域名、氏名(または雅号)を掲載します。

あて先

〒690-0887 松江市殿町19-1
JAしまね ふれあい福祉課
「俳句の広場係」または「川柳の広場係」
FAX: 0852-67-7708
Eメール: fureai.hon@ja-shimane.gr.jp

最優秀賞、優秀賞の4名様には「農協全国商品券1,000円分」をお贈りします。



・お預かりした個人情報、プレゼントの抽選・発送のみに使用し、その他の目的で利用することはありません。






若い
今こそ年金
アクション!



若い農業者の皆さん! 自分の老後自分で守れますか?

農業者年金なら・・・

-  国庫補助で手厚い支援
1万円の自己負担で**2万円の積立てが実現!**
-  早く加入すれば、**国庫補助が長く受けられます**
-  自ら支払った保険料は、**全額社会保険料控除**
の対象!さらに**保険料は自由に選べます!**

※農業者年金の加入には、
「国民年金第1号被保険者であること」
「年間60日以上農業に従事していること」
「60才未満であること」

の3つの要件を満たしている必要があります。

※国庫補助を受けるためには加えて、「認定農業者、認定新規就農者であること」や「青色申告をしていること」等の要件が必要です。

※詳しくは、お近くの農業委員会、又はJAへ!



詳しくは…

<https://www.nounen.go.jp>

ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査

**ハチ
駆除**

近寄らず、触らず!!

ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先

**最寄りのJA各支店に
お問い合わせください**

取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)

Kodama 株式会社 コダマサイエンス

■本社/島根県松江市西塚島2-8-23 ☎0852-43-0852

■松江営業所/☎0852-26-6757 ■江津出張所/☎0855-52-6852

■益田営業所/☎0856-22-5390 ■隠岐営業所/☎08512-2-2471

謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます

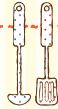
この度の大雨により被害を受けられました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

島根県農業協同組合 代表理事組合長 石川 寿樹

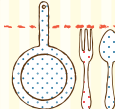
本誌は地球環境に優しい植物油インクを使用しております。



島根うまれの食材レシピ



しまねうれしび



島根県『家の光』講師 飯塚生美子 先生

ピリ辛肉みそ トマトのせ



材料 (4人分)

- トマト……………2個
- 合挽肉……………200g
- 生姜……………ひとかけ
- A 酒……………小さじ1
- しょうゆ……………小さじ1
- 細ねぎ……………4～5本
- サラダ油……………大さじ1
- 味噌……………大さじ2
- 砂糖……………大さじ2
- B 酒……………大さじ1
- しょうゆ……………大さじ1
- 豆板醤……………小さじ1/2～1

作り方

- ①生姜はみじん切りにする。細ねぎは小口切りにする。
- ②トマトは7～8ミリ厚さの輪切りにして、皿に盛り付ける。
- ③合挽肉にAを振りかけ軽く混ぜ、下味をつける。(挽肉を50度のお湯につけて、ザルにあげ、水気をきると余分な脂やアクを取り除くことができ、軽い仕上がりになります)
- ④フライパンにサラダ油を熱し、③の肉を入れてほぐしながら炒める。色が変わったらねぎの半分量を加えてさらに炒める。
- ⑤ねぎに火が通ったら、混ぜ合わせたBを加え、混ぜながら汁けがなくなるまで炒め肉みそにする。
- ⑥②のトマトの上に⑤のをせ、細ネギをかけた後完成。

コメント

- ・日持ちするので、常備すると重宝です。(密封容器に入れて冷蔵庫で4～5日間)
- ・辛さは豆板醤の量で加減してください。

アレンジ

- ・ご飯のお供やおにぎりの具に。葉野菜で巻いたり冷ややっこのトッピングにも使えます。
- ・そうめんのにせるとジャーチャー麺風に変身します。

材料 (4人分)

- 海老……………200g
- 塩……………小さじ1/2
- 片栗粉……………小さじ2
- ピーマン……………3個
- オクラ……………1袋(8～10本)
- ホールコーン……………100g
- にんにく……………ひとかけ
- ごま油……………大さじ1
- 中華だし……………小さじ1
- A しょうゆ……………小さじ1
- 塩こしょう……………少々

作り方

- ①海老は殻と背ワタを取り除いて塩をもみ込み、片栗粉を振りかける。
- ②ピーマンは半分に分けて種を取り除き、一口大の細長い斜め切りにする。
- ③オクラは額をぐるりと削り取り、半分に斜め切りにする。
- ④にんにくはみじん切りにする。
- ⑤フライパンにごま油とニンニクを入れ、火をつけ、香りが出てきたらピーマン、オクラを広げて入れ、2分間かき混ぜずにおき、裏返して2分間炒め、Aの調味料を入れて、炒めて取り出す。
- ⑥取り出したフライパンにごま油を入れ、①の海老を焼き、火が通ったら、⑤の野菜とホールコーンを加えて軽く炒め合わせたら完成。

海老と夏野菜の中華炒め



コメント

- ・野菜は余熱でも火が通ります。少し硬めくらいで火からあらずとシャキッと仕上がります。
- ・野菜を炒める時はフライパンに入れたらそのまま置いて、水分を適度に飛ばしてから炒めると水っぽくなりやすいです。

アレンジ

- ・野菜はなんでもOKです。
- ・ホールコーンを大きく炒めた卵に変えてボリュームアップ!



健康散歩

尿路結石に気を付けましょう

JA島根厚生連

暑い夏はたくさん汗をかいたため、体の水分量が減少しやすい時期です。この時期に発症しやすい病気の一つに「尿路結石」があり、気温の上昇とともに増える傾向があります。尿路結石とは尿の通り道(尿路)である、腎臓・尿管・膀胱・尿道に石ができる病気です。腎臓にあるうちはあまり痛みを感じませんが、結石が尿管に出て途中で詰まると痛みが出ます。自覚症状としては背中・脇腹・下腹部の激しい突然の痛みや、見た目で見える肉眼的血尿などがあります。結石は主にカルシウムやシュウ酸でできています。結石を予防するためには、シュウ酸などを増やす動物性たんぱく質を摂取する量を少し控えるとよいでしょう。ほうれん草などシュウ酸を多く含む食品を食べる時は、茹でてシュウ酸の量を減らしましょう。ほうれん草のおひたしには、

かつお節やちりめんじゃこをかけて食べるなど、カルシウムと一緒にとることで結石の予防効果がアップします。カルシウムが結石の成分であるため、カルシウムを摂取しない方が良さそうですが、胃腸の中でシュウ酸とカルシウムがくっついて便と一緒に出ること、尿に溶け出す量が減り結石ができにくくなります。そして、食事以外でも水分を積極的に取ることが大切です。体の水分が不足すると、尿の濃度が高まり結石ができやすくなるため、食事以外で1日2リットル程度の水分をとることが理想的です。水分補給をする際には、シュウ酸の多い玉露や紅茶は避け、水やほうじ茶をお勧めします。暑い時期は特に水分補給を十分に行い、尿路結石と共に熱中症を防ぎましょう。

【編集後記】 未だ終わりが見えない新型コロナ。不安を抱えながら生活を送り、約1年半が経ちました。そんな中、今年もコロナ感染拡大防止対策を考慮し開催した総代会。本人出席の人数を大幅に制限した中でしたが、議案について活発な質疑応答が行われました。コロナを機に会議などの開催様式が変わりつつありますが、来年度は通常通り開催できるよう、コロナが早く収束してほしいものです。(安)